



都立府中療育センター新聞 第447号 発行日 平成27年2月27日

第18回地域療育講習会

医療社会事業担当係 高柳 謙一

18回目となる地域療育講習会が、2月20日（金）に多摩総合医療センターのフォレストにて開催されました。今回は「重症心身障害児者の終末期支援～看取りについて考える～」をテーマとしました。大変重いテーマで、実現までに紆余曲折があったのも事実ですが、避けては通れないテーマでもあり、関心は非常に高いものがありました。療育や障害児者に携わる方をはじめ、ご家族・ボランティア・当センター職員も併せて140名近い参加者があり、熱心に聞き入っていました。

講義は、4人のそれぞれ違った立場の方をお願いしました。まず、都立小児総合医療センターの神経内科・子ども家庭支援部門医長の富田医師から「在宅の重症心身障害児者の看取り」という演題で講義がありました。緩和ケア、特に重症児にとっての緩和ケアの意味や実践的取り組みと看取りについて、症例をあげながら熱く話されました。次に当センターの指導科通所田邊主任技術員から「在宅での看取りを選択したA氏・家族と生活介護事業の関わり」という講義です。通所事業全般の説明から、重い腎疾患を持ち通所していたA氏がCVポート管理になった際にどのように対応し、家庭での看取りまでつなげていったかを丁寧に説明しました。3番目に、当センター指導科の首藤心理から「重症心身障害者の終末期に寄り添って～Hさんとの関わり～」という講義がありました。やはり当センターの通所に通っていたH氏が、食道がんステージIVと診断され入院し、センターで最期を迎えるまでの日々、本人との関わりを実施した中での考察を述べました。

休憩を挟み、後半の講義は前半でも紹介されたH氏のお母様から「本人・家族と府中療育センタースタッフとの関わりについて思うこと、感じること」（息子から～愛のメッセージ～）という演題での話でした。何故、府中療育センターでの看取りを選択したか、そしてその中で感じたこと。また、グリーフケア（※）にもふれ、現在母親がボランティア活動をしていることまで話されました。その後、毎回行っている質疑応答のコーナーです。今回は、質問だけでなく感想や意見等も多く出されました。

本番までに打ち合わせは数回行いましたが、演者4名が揃ったのは当日が初めてでした。うまくつながりのある講習会になるか、少し心配もありましたが、全くの杞憂でした。在宅と入院という違った看取りを選択された2つの事例が4本の講義で流れるようにつながりました。このような講習会に関わって、自身10回目の担当を終えることができ、心から感謝しています。

（注釈）※グリーフケア：大切な人を亡くし、大きな悲嘆（グリーフ）に襲われている人に対するサポートのこと。



発表の様子

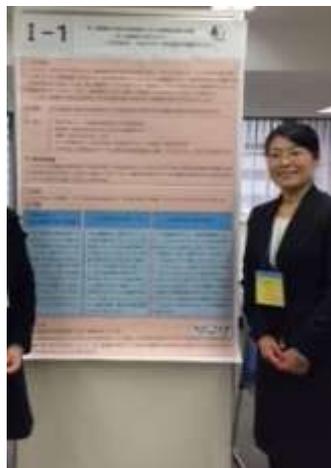


質疑応答での司会進行



回答を行う様子

平成26年度東京都看護協会研究学会に参加して



4-1病棟 看護師 守田 紀衣

1月24日（土）日本教育会館にて「平成26年度東京都看護協会看護研究学会」が開催されました。「マイタウン TOKYO Justな都市型看護を目指します！一家族を支えるさまざまな看護のかたち」をテーマとして、患者が住み慣れた地域で過ごすための課題について検討することにしたということでした。

開会のあいさつでは、東京都が迎える超高齢化社会の特徴から、今後様々な形の都市型看護を考える必要があること、また現場で働く看護職員が非常に貴重な存在であることなどのお話があり、とても印象深いものでした。

今回、私は「新人看護師の臨床研修期間における情報収集の実際～新人看護師の語りから～」というテーマで、示説発表をさせていただきました。示説発表は初めての経験で、聴講される方との距離が思ったより近く、かなり緊張しましたが、何とか終わることができました。発表後、現在の臨床研修を取り入れる前についての情報収集の状況や、情報収集期間に4週間かけている理由についての質問がありました。また、新人看護師を育てる上でこのような研究は、大切な取り組みなので、頑張ってくださいとのお言葉も頂き、自身にも大きな励みになりました。

院内からは、4-2病棟の倉石さんも「呑気症の利用者に対する腹部膨満を軽減するポジショニングの効果」というテーマで示説発表されました。同様の施設に勤める方など、関心が高く、様々な質問を受けていました。

特別講演では、「交代勤務のための上手な睡眠」と題して、睡眠の仕組みや、交代勤務を乗り切るために睡眠のとり方を調整する方法など、看護職に欠かせない現場に即した課題を聴くことができました。また、ランチョンセミナーは、“お笑いによるコミュニケーション”や“植物エストロゲンの作用”など、コミュニケーションの方法や健康問題を考える興味深い内容でした。他にも様々な切り口での看護を考える、口演・示説発表を聴くことができ、学びの多い学会参加となりました。

最後に、今回の学会参加にあたっては、看護担当科長、病棟看護長、研究参加者をはじめ様々なスタッフの方にご協力、ご指導いただいたことを心より感謝申し上げます。



1-B利用者さん 演歌セカンドリサイタル

事務室 栗原 拓

昨年6月に演歌のファーストリサイタルを行った、1-B病棟の利用者さんが、1月29日（木）セカンドリサイタルを行いました。今回も多くの利用者のみなさん、職員が聞き入りました。





院内研修「重症心身障害児・者の食事介助」

訓練科 作業療法士 濱田 里砂

2月10日(火)にNST委員会(摂食・嚥下ワーキンググループ)主催で「重症心身障害児・者の食事介助」について、院内研修が行われました。

利用者様に、安全にお食事をしていただくためには、「姿勢の調整」、「食事・水分の形態」、「介助方法」などに専門的知識と技術が求められます。参加者は70名でそれぞれに深い学びを得ました。

一つめの講義は渥美医長の「脳性麻痺のタイプ別介助方法」で、事例を通し、脳性麻痺の運動・姿勢の特徴を踏まえた上で、食事介助のポイントが動画で紹介されました。また、合併症や高齢化が、誤嚥・窒息の嚥下の問題のみならず、低栄養、脱水、感染症を罹患しやすくなるという指摘もありました。

二つめの講義は谷野摂食嚥下障害看護認定看護師の「日常の食事介助ポイント」で、実際の食事場面で、「こんなときどうしたらいいのだろう。」という問題の対応方法が示されました。最後に、食事中の観察ポイント8つ(「1.食事中のむせ」「2.急に痰の量が増えた」「3.呼吸状態(速拍、喘鳴)」「4.心拍数」「5.声の変化」「6.酸素飽和度」「7.食欲」「8.疲労」)が挙げられ、「同じ利用者様でも日によって体調の変化があるので、いつも安全で楽しい食事を提供できるよう、状態を観察しましょう。」とまとめられました。

研修後のアンケートでは「今後の食事介助に活用できる」と答えた方は90%でした。「動画でわかりやすかった。」「各利用者の介助方法を教えてほしい。」「研修を続けてほしい。」という意見もあり、今後も研修会を開催していきたいという思いを強くしました。多数の方にご協力いただき、ありがとうございました。



指導科 冬の企画

指導科 田中 栄美



ぐりぐらルーレット

「ぐりとぐらの森で遊ぼう・・・ほわっほわっのカステラを作ってみたあ〜い!」というコンセプトで2月17日(火)冬の企画を実施しました。今回のイベントキャラクターは絵本でおなじみの「ぐりとぐら」です。内容は、病棟対抗で3種類のゲームを楽しみながら、カステラの材料(バター・小麦粉・卵・牛乳・砂糖)を集めるというものでした。

「ぐりぐらルーレット」は、ぐるぐる廻るルーレットの矢印がどこにとまるかじっと見つめ、当たった人からは歓声が!手に汗握って大盛り上がりでした。「ぐりぐらクルリンパ」は、クルリンとひっくり返したカードどうしが、ピタリと合えばカードに描かれた材料がもらえる「記憶力ゲーム」!真剣な表情でカードを見つめる姿が印象的でしたね。「ぐりぐらBIGモヤット」は、ひもを引っ張ると、材料が貼られたピンをめがけてモヤットボールが飛んでいく「ボーリング風ゲーム」!皆さん、ピンに当たってすっきりしたのでしょうか!?白熱したゲームのあとは、「ぐりぐらカフェ」でクールダウン。「キャラメルドリンク」と「やわらかポテトケチャップ添え」のセット

が好評でした。利用者の方が獲得した材料は、「ぐりぐらキッチン」にある各病棟のカラフルなフライパンに入れられ、各病棟何個のカステラが焼きあがるのかを競いました。

今回参加できなかった方々も、手作りゲームの貸し出しができますので楽しんでくださいね。



ぐりぐらキッチン

節分行事

事務室 栗原 拓

2月2日（月）、3日（火）通所や複数の病棟で、節分の行事が行われました。

メインイベントはやはり豆まき！病棟や通所にたくさんの鬼が登場しました。

鬼は職員が扮したり、段ボールなどを利用して作成したりと多種多様で、怖い鬼、かわいい鬼だったり、表情も様々でした。また、鬼を退治するための、豆のまき方も様々でした。職員が作成した「豆まきマシン4代目（略してMM4）」を利用する病棟や、風を起して豆を飛ばしてまいている病棟もありました。

利用者の皆さんは自分の手で直接豆をまいたり、マシンを駆使し、鬼を退治していました。

他にも、鬼と福の神の釣り堀りなどもあり、利用者の皆さんは思い思いに季節の行事を楽しんでいました。



豆まきマシン4代目(MM4)を駆使し鬼に豆をまきます！！



赤鬼、青鬼、福の神の釣り堀り♪



風を起し、豆を吹き飛ばして鬼にぶつけます！！



センターにはいろんな鬼が登場しました！

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

Fax 042(322)6207

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>